

龍角寺古墳群確認調査報告書

1 9 8 1

千葉県教育委員会

序にかえて

県立房総風土記の丘は、利根川と印旛沼にはさまれた成田市大竹から印旛郡栄町龍角寺に広がる丘陵上にあり、史跡岩屋古墳をはじめとする大小120余基の古墳が密集する龍角寺古墳群が所在する地として、広く県民の皆様に親しまれています。

ところで、これに隣接した県企業庁用地の利用計画がおこり、その取扱いについては県教育委員会と県企業庁との間で長年にわたり協議してまいりましたが、確認調査を実施し、その結果により利用計画を検討することで合意に達しました。

この報告書は、県教育委員会の委託を受けて財団法人千葉県文化財センターが実施した確認調査の結果を取りまとめたものであります。本報告書が、房総風土記の丘を中心とした広大な土地の利用計画策定の検討資料として利用されることは勿論、よりよい郷土づくりの一助として利用されることを念じてやみません。

最後に、調査から本書の刊行に至るまで御協力いただいた関係諸機関に厚く御礼申し上げます。

昭和56年3月

財団法人 千葉県文化財センター

理事長 今井 正

例　　言

1. 本書は、千葉県印旛郡栄町字五丹歩、池上り地区の埋蔵文化財確認調査報告書である。
2. 調査は、千葉県教育庁文化課の指導のもとに、財團法人千葉県文化財センターが実施した。
なお、本調査は国庫補助事業である。
3. 調査期間は、昭和55年11月1日～昭和56年3月31日であり、第1次調査（昭和55年11月1日～12月31日）と第2次調査（昭和56年2月28日～3月7日）を実施した。
4. 調査面積は、対象面積105,000m²に対して7,900m²である。
5. 発掘調査及び整理は、財團法人千葉県文化財センター調査研究員・萬崎博昭、矢戸三男が担当し、調査部長・白石竹雄、部長補佐・栗本佳弘、班長・西山太郎が指導、監修した。
6. 調査にあたり、栄町龍角寺地区・酒直地区、成田市上福田地区・大竹地区・南羽鳥地区、栄町酒直遺跡調査団、芝山はにわ館・福間元氏、房總風土記の丘資料館の方々並びに関係機関の御協力を得た。
7. 報文中では、調査地区的字名を遺跡名とし、既に調査が進行している地方主要道成田安食線で使用している遺跡名と一致させた。

なお、コード番号は、財團法人千葉県文化財センターが使用しているもので、市町村コードは自治省のそれを、遺跡コードは当センターがその市町村で行った調査の順番号を表す。

栄町コード　　遺跡コード

329	007	五丹歩遺跡（南地点）
〃	008	五丹歩遺跡（北地点）
〃	009	池上りⅢ遺跡
〃	010	池上りⅡ遺跡

8. 報文中では、グリッド、トレンチと記すべきところを、それぞれ Gr. Tr. と省略して使用している部分がある。
9. 方位は、無記名のものは全て公共座標における北方向を示す。なお、栄町付近の磁針方位は、西偏約6°20'（昭和52年、国土地理院発行5万分の1地形図による）である。

目 次

序にかえて	
例 言	
本文目次	
第1章 発掘調査の経緯と概要	1
1) 発掘調査に至る経緯	1
2) 発掘調査の経過と概要	1
(1) 五丹歩遺跡（南地点）	1
(2) 五丹歩遺跡（北地点）	2
(3) 池上りⅡ遺跡	2
(4) 池上りⅢ遺跡	2
第2章 地形と環境	5
1) 地 形	5
2) 環 境	6
第3章 遺跡各説	9
1) 五丹歩遺跡（南地点）	9
2) 五丹歩遺跡（北地点）	16
3) 池上りⅡ遺跡	16
4) 池上りⅢ遺跡	20

挿 図 目 次

第1図 地形図及びトレンチ配置図（折込み）	
第2図 位置及び地形図	
第3図 五丹歩遺跡（南地点）遺構分布図（折込み）	
第4図 4 G40Gr 遺物出土状況図	
第5図 4 G40Gr 出土土器拓影図	
第6図 グリッド出土土器拓影図 I	
第7図 グリッド出土土器拓影図 II	
第8図 4 G40Gr 出土石器実測図	
第9図 002号跡平面・断面図	

- 第10図 002号跡出土土器実測図
- 第11図 五丹歩遺跡（北地点）、池上りⅡ・Ⅲ遺跡遺構分布図及び土層断面図（折込み）
- 第12図 五丹歩遺跡（北地点）、池上りⅡ・Ⅲ遺跡遺構検出状況図
- 第13図 五丹歩遺跡（北地点）出土土器拓影図
- 第14図 池上りⅡ遺跡出土土器拓影図
- 第15図 池上りⅢ遺跡出土土器拓影図
- 第16図 池上りⅢ遺跡020号跡平面・断面図
- 第17図 池上りⅢ遺跡020号跡出土土器実測図及び骨片出土状況図

図 版 目 次

- PL. 1 遺跡遠景・五丹歩遺跡（南地点）調査状況
- PL. 2 五丹歩遺跡（北地点）、池上りⅡ・Ⅲ遺跡調査状況
- PL. 3 五丹歩遺跡（南地点）出土遺物
- PL. 4 五丹歩遺跡（北地点）、池上りⅡ・Ⅲ遺跡出土遺物

第1章 発掘調査の経緯と概要

1) 調査に至る経緯

県立房総風土記の丘には、史跡岩屋古墳をはじめとする大小120余基の古墳によって構成される龍角寺古墳群があり、その面積は約32haである。敷地内には資料館のほか遊歩道を設けるなどして、古墳や自然環境がじかに観察できる様になっている。ほかに民家などの建造物3棟が移築、保存されていて、広大な自然と歴史的文化遺産に親しめる場となっている。

この房総風土記の丘に隣接した県企業庁用地の土地利用計画の策定にあたっては、昭和47年3月15日付県教育委員会との協定書にもとづき埋蔵文化財の所在の有無について、確認調査することとで県企業庁と県教育委員会の間で合意に達した。

この結果、県教育委員会では、国庫補助金により確認調査を実施することとし、その調査を財団法人千葉県文化財センターに依頼した。

調査期間は、昭和55年11月1日から昭和56年3月31日までであり、発掘調査は以下のように実施した。

1次調査……昭和55年11月1日～12月31日

2次調査……昭和56年2月28日～3月7日

2) 発掘調査の経過と概要

(1) 五丹歩遺跡（南地点）

発掘調査は、昭和55年11月4日より開始した。調査方法としては、グリッド及びトレンチを併用した。つまり、調査区全体に50×50mの大グリッドを設定し、これを北西隅より東へ1～8とし、南へA～Hとした。さらに、大グリッドを5×5mの小グリッドに分割し北西隅より東へ00～09、以下同様に10～19・20～29……99までの番号を付けた。発掘区は、グリッド軸に平行する幅2mのトレンチを設定した。検出された遺構・遺物は、全てグリッド番号を付けて処理した。

調査は、まず2～4・A～E Grのトレンチを完掘し、落込み精査・図面作成・写真撮影・001～003号跡の調査を行った。これらのトレンチは、北側平坦面及び北東側から入り込む浅い谷部に位置している。谷部では遺構は検出されず、遺物も少量である。北側平坦面上では、001・002号跡の蔵骨器の他、No31・32等のように住居跡と思われる落込みも幾つか検出された。次いで、5～8・C～H Grのトレンチの発掘を行うとともに、2～4・A～E Grのトレンチの埋戻しも併行して行った。東側平坦面に位置する5～8・C～H Grのトレンチでは、落込みの検出は少いが、縄文時代の遺物はやや多く出土している。これらの図面作成・写真撮影を行うとともに順次埋戻

しも行い、12月26日に全ての作業を完了し第一次調査を終了する。

昭和56年2月28日より第二次調査を行い、2A～C90列、3A90列、5D・E90列、6D・E90列のトレンチを完掘し、3月7日埋戻して現地調査を終了する。

(2) 五丹歩遺跡（北地点）

発掘調査は昭和55年11月1日～11月17日間に実施した。発掘面積は950 m²である。発掘区は東西南北に50×50mの大グリッド（東西をF～Hとし、南北を6～8）及び、小グリッド（北西隅を00とし、東へ09以下同様に10～19……99までとした。）を設定し、グリッド軸に併行するトレンチ法により調査した。トレンチは南北方向にI～ⅢTr、東西方向にIV・VTrを設定し順次発掘した。

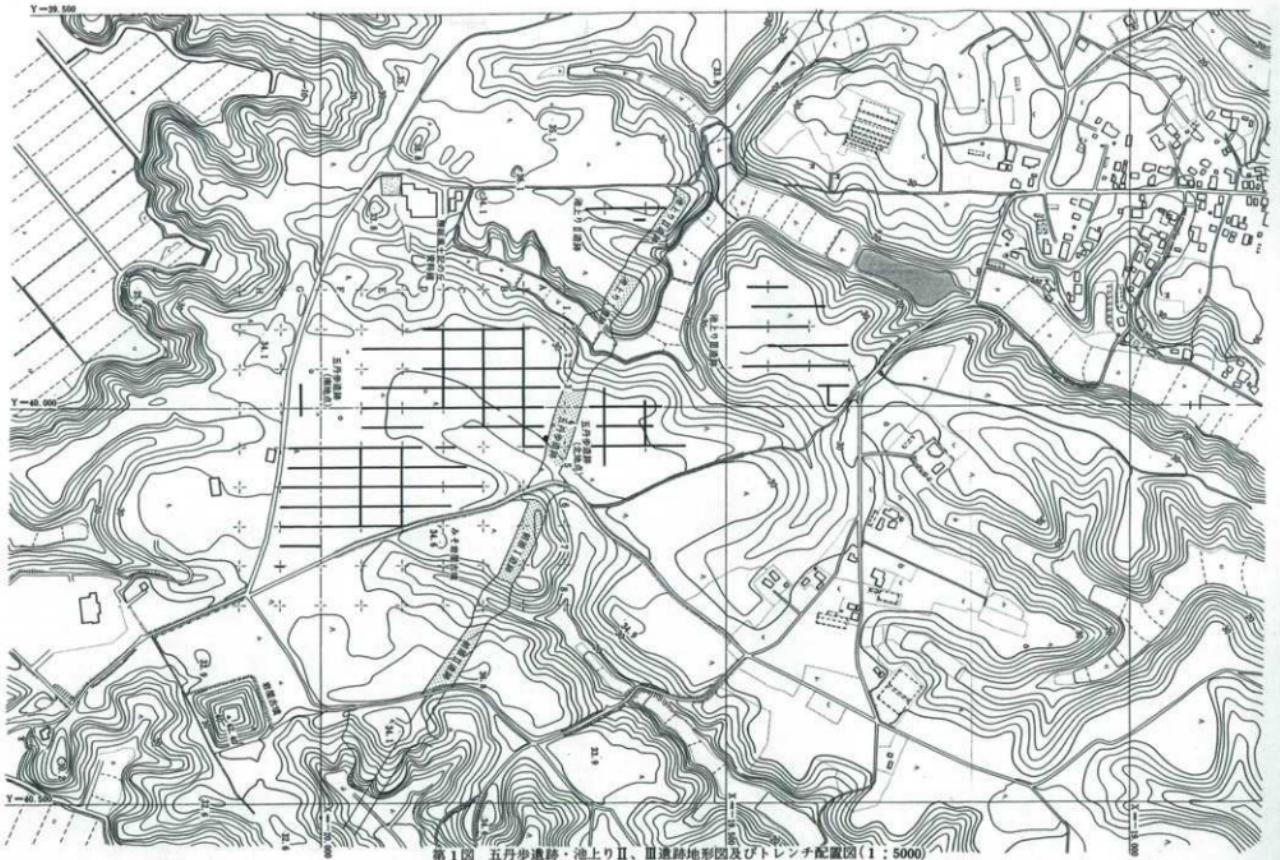
遺構は001から015号まで確認した。出土遺物は遺物番号及びグリッド番号を付して処理した。トレンチ・遺構・遺物等の図面作成、写真撮影を行うとともに埋戻しを行い、11月17日全ての作業を完了した。

(3) 池上りⅡ遺跡

発掘調査は昭和55年11月26日～12月3日間に実施した。発掘面積は230 m²である。発掘調査は大グリッド50×50m（東西A～B、南北6～8）を設定し、グリッド軸に併行するトレンチ法によった。本遺跡からは多数の遺物、遺構を検出した。トレンチは南北方向にI・II Trを設定し順次発掘した。

(4) 池上りⅢ遺跡

発掘調査は昭和55年11月14日～12月1日間に実施した。発掘面積は1070 m²である。発掘調査は大グリッド50×50m（東西C～G、南北1～5）を設定し、グリッド軸に併行するトレンチ法により調査した。トレンチは、南北方向にI～VII Trを設定し、一部では東西方向にも設定し、順次発掘した。遺構は001～021号まで確認した。出土遺物は遺構番号及びグリッド番号で取り上げた。



第1図 五丹歩道路・池上りII、III遺跡地形図及びトレンチ配置図(1:5000)

第Ⅱ章 地形と環境

1) 地形(第2図)

五丹歩道跡(1・2)、池上りⅢ(3)・Ⅳ(4)遺跡は、印旛沼の北東岸にあり標高30m前後の台地上に位置する。この周辺の台地は、印旛沼と根本名川及び利根川との間にあって複雑な樹枝状台地を呈する。五丹歩道跡は、北方向に延びる樹枝状台地の基部に位置している。南地点は北東より南西方向に浅い谷が入り込んでおり、この谷をどりまくように平坦面が存在する。北西側の平坦面は南側に向って緩やかに傾斜する。この平坦面は、地方主要道成田安食線の五丹歩道跡(5)及び北地点と同一面上にある。南側平坦面は西側平坦面と連なるが、一段高くなっている。東側平坦面は、南側に向って緩やかに傾斜し南側平坦面に連なる。

北側地点は、南地点と同一平坦面上にあるが、やや幅が狭くなっている。

池上りⅢ遺跡は、北方向に延びる舌状台地上に位置するが、調査地点はその北東端にあって平坦部から傾斜面へ移行する部分である。

池上りⅣ遺跡は、南西方向に延びる舌状台地上に位置している。池上りⅢ・Ⅳ遺跡の所在する



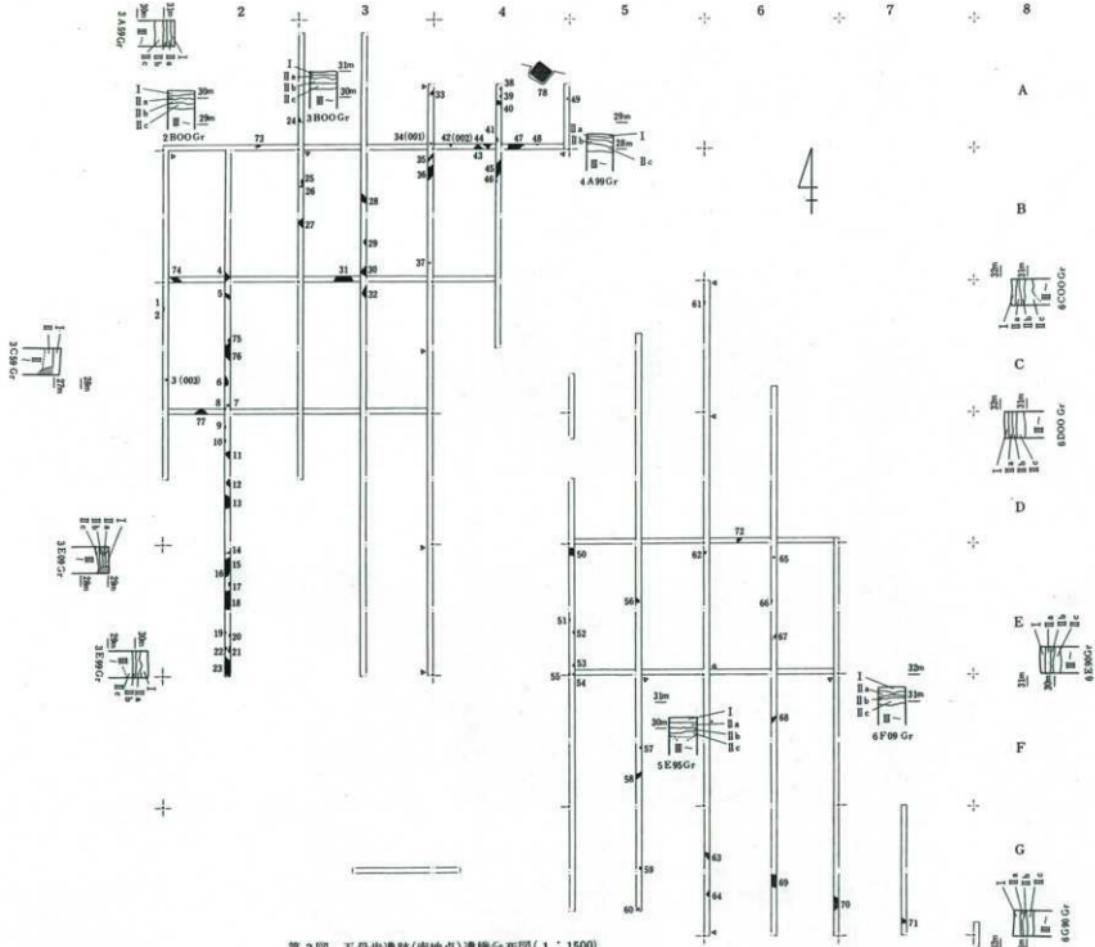
第2図 位置及び地形図

台地は、いずれも利根川方向より入り込む谷の最奥部に位置するものである。

2) 環 境（第2図）

五丹歩遺跡、池上りⅡ・Ⅲ遺跡の周辺には、数多くの遺跡が存在するが、そのうちの幾つかを示した（図2）。五丹歩遺跡、池上りⅡ・Ⅲ遺跡内及びその周辺には、房総風土記の丘の主要テーマとなっている龍角寺古墳群（8）があり、岩屋古墳（6）をはじめとし前方後円墳・円墳・方墳が群在する。風土記の丘の北方約1.2kmには、白鳳期の建立と伝えられる龍角寺（7）がある。また、南方約3.5kmには県指定史跡八代玉作遺跡（9）があり、外小代遺跡・大竹遺跡等とともに八代玉作遺跡群を構成している。この周辺は、成田ニュータウン建設に伴って大規模な調査が行なわれ、玉作工房跡のはか先土器時代～歴史時代までの遺構・遺物が検出されている。

風土記の丘周辺でも、最近二・三の調査が行なわれており、この周辺の先史～古代の様相の一端が明らかにされつつある。このうち地方主要道成田安食線建設に伴う調査により、前原遺跡・五丹歩遺跡においては、古墳時代後期以降の住居跡は検出されておらず、前期～中期にかけての住居跡が散在することが明らかにされている。これらの住居跡の中には、完全に埋没しきらないままやや壅みを呈する状態で現在に至っているものがあることが明らかにされており、五丹歩遺跡（南地点）においてもNo.31・76・77・78等のはか幾つかの壅みが認められている。また、五丹歩遺跡では、土師器複形土器の藏骨器も數点出土しており、この地区が墓域とされていたことを示している。



第3図 五丹歩道跡(南地点)遺構分布図(1:1500)

第Ⅲ章 遺跡各説

1) 五丹歩遺跡（南地点）

本地点は、北東側から南西側にかけて浅い谷が入り込んでおり、平坦部はこの谷を囲むように存在するものの多少の高低差がある。谷部は、概ね標高29~30mラインの間で終るが、3・4C・D Grの標高30m付近及びそれ以下では地下水位が高く、降雨後は軟質ローム層上で湧水が認められる。

本地点の自然堆積土層（第3図）は、谷部及び傾斜地を除き殆ど同様な層序を示す。I層は、表土層であり暗褐色を呈するが、山林内では茶褐色を呈する箇所もある。IIa層は黒色~暗褐色を呈し所によつては2~3層に細別出来る。特に縄文時代後期~晩期の遺物は、IIa層下部~IIb層にかけて比較的まとまって出土する例が認められた（3B24Gr・5E25Gr・6E35Gr・6G19~29Gr等）。また、I~IIa層にかけて土師器あるいは須恵器片が集中して出土する箇所（2C70Gr・4A90Gr等）がある。IIb層は、所謂新期テフラ層に対比されるもので黄褐色を呈するが、純粹なテフラ層ではなく暗褐色土との混合した状態を呈す。前述したように縄文時代後期~晩期の遺物が包含されているが、本調査ではIIb層以下の発掘を行なつてないため詳細は不明。IIc層は暗褐色~黒褐色を呈するが、所によつては細別出来る。4G40Grでは、IIc層中に小礫が集中している（第4図）。III層は、軟質ローム層である。先土器時代の遺構・遺物については、ローム層を掘下げていないため不明。

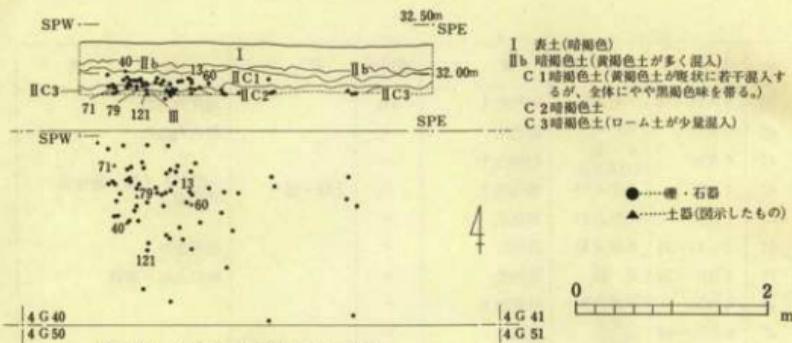
検出された落込みは78か所を数える（第3図）が、これらの中には遺構か否か判別しがたいものも含まれている。なお、前章で述べたように本遺跡では、住居跡が存在するとと思われる場所が周辺よりやや窪んでいる。この窪みが住居跡であることは、地方主要道成田安食線に伴う調査によって発掘されたNo78遺構によって明らかである。このような窪みは、北東方向より入り込む谷の縁辺に沿ってほぼ一列に並んでおり約9箇所認められる。これら以外にも完全に埋没しきった住居跡も検出されている（No32等）。

検出された落込みの一覧表を掲載した（第1表）が、形態については発掘した範囲内のプランを表現したものであり必ずしも当を得ていないものもある。また、落込み覆土上部出土遺物は、必ずしもその落込みの所属時期を示さない場合もある。

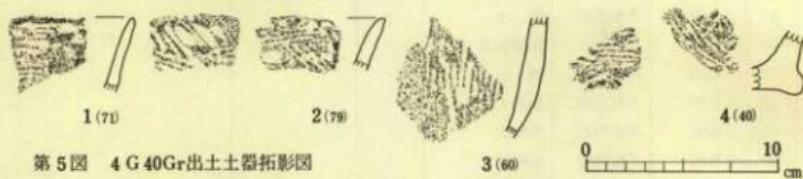
五丹歩遺跡（南地点）遺構一覧表

No	位 置	形 態	覆 土	検出面	遺 物	備 考
1	2 C 10	長円形	焼土及び 焼土ブロック	II b		
2	2 C 10~20	椭円形	暗褐色土	"		炭化粒若干
3	2 C 70	不整円形	暗褐色土	"	土師・甕	003号址 土壌・真間期 藏骨器か
4	2 B 94	方 形	暗褐色土	"		
5	2 C 04~14	溝 状	暗褐色土	"	土師・甕、高坏	鬼高峰期
6	2 C 74	不整椭円形	暗褐色土	"		
7	2 C 94	円 形	炭化物	"	土師・甕	鬼高峰期
8	2 C 94	円 形	暗褐色土	"		
9	2 D 04~14	円 形	暗褐色土	"		
10	2 D 14~24	椭円形	暗褐色土	"	土師・甕	真間期
11	2 D 24~34	方 形	黒褐色土	"	土師・坏	鬼高峰期
12	2 D 34~44	不整椭円形	暗褐色土	"		
13	2 D 54~64	不整方形	黒色土	"		住居址か
14	2 E 04	方 形	暗褐色土	"		住居址か
15	2 E 14~24	方 形	黒色～黒褐色土	"		No14と重複
16	2 E 24	方 形	暗褐色土	"		No15と重複
17	2 E 24~34	円 形	暗褐色土	"		住居址か
18	2 E 34~44	不整方形？	黒色土	"		住居址か
19	2 E 64	不整円形	黒色土	"		
20	2 E 64	不整円形	黒褐色土	"		
21	2 E 74~84	方 形？	黒色土	"		円形が新
22	2 E 74~84	方 形	黒色土	"		
23	2 E 84~94	不整方形	黒褐色土	"	土師・坏	94Gr内に焼土 真間～国分期
24	3 A 70	不整椭円形	暗褐色土	"	土師・坏	焼土粒多含 鬼高峰期
25	3 B 20	不整円形	暗褐色土	"		
26	3 B 20	方 形？	暗褐色土	"		炭化物多含
27	3 B 50	方 形	黒色土	"		住居址か
28	3 B 34~44	椭円形	黒色土	"		
29	3 B 64~74	方 形？	黒色土	"		
30	3 B 94	不整形	焼土及び 焼土ブロック	"		
31	3 B 92~94	方 形	黒色土	"	土師器	住居址 和泉～鬼高峰期 和泉期 住居址
32	3 C 04~14	方 形	黒褐色土	"	土師・甕、高坏	
33	3 A 59	椭円形	黒褐色土	"		
34	3 A 99	不整円形	暗褐色土	"	土師・甕	001号址 土壌・藏骨器 真間期
35	3 B 09	不整形 (溝状)	焼 土	"		
36	3 B 19~29	不整形 (溝状)	黒色土	"	土師・甕	和泉期・真間期
37	3 B 89	不整形	焼土及び焼土粒	"		
38	4 A 54	円 形	暗褐色土	"		炭化物含む

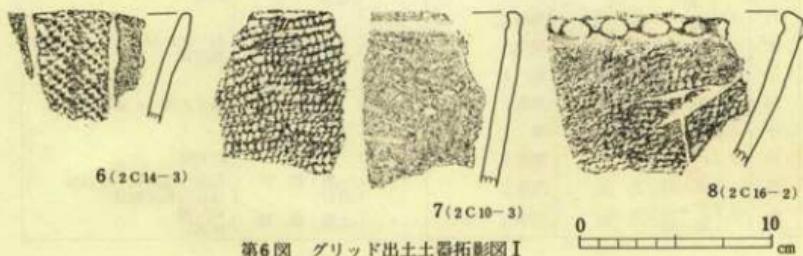
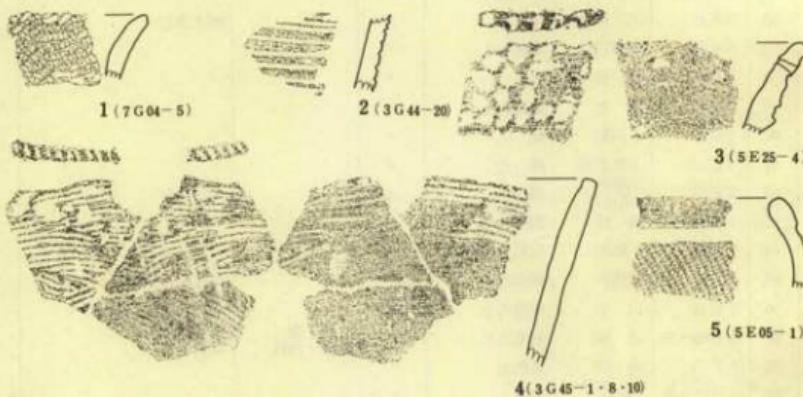
No	位 置	形 態	覆 土	検出面	遺 物	備 考
39	4 A 54~64	不整円形	暗褐色土	II b		炭化物含む
40	4 A 64	不整形	黑色土	"		炭化物含む
41	4 A 94	不 明 (直線的)	暗褐色土	"		
42	4 A 91	不整円形	暗褐色土	"	土師・甕	002号址 土壙・藏骨器 真間期
43	4 A 93	不整方形	黑色土	"		
44	4 A 93~94	不整方形	黑色土	"		住居址か
45	4 B 04~24	溝 状	黑色土	"		No 47と同一遺構
46	4 B 24	不整円形	暗褐色土	"		
47	4 B 95~96	不整形 (溝状)	黑色土	"		
48	4 A 97	円 形	暗褐色土	"		
49	4 A 69	不整円形	燒 土	"		
50	5 E 00	不整形 (溝状)	黑褐色土	"		
51	5 E 50	不整円形	燒 土	"		
52	5 E 60	不整円形	黑色土	"		
53	5 E 90	不整円形	黑色土	"		
54	5 E 90	不整円形	暗褐色土	"		
55	5 E 90	不整形	暗褐色土	"		
56	5 E 45	不 明	黑色土	"		燒土含む
57	5 F 55	不整円形	暗褐色土	"		
58	5 F 75	溝 状	黑色土	"		
59	5 G 45	円 形	暗褐色土	"		
60	5 G 75	長円形	燒 土	"		
61	6 C 10	不整方形	燒 土	"		
62	6 E 00	不整形 (溝状)	黑色土	"		燒土含む
63	6 G 30~40	溝 状	黑褐色土	"		
64	6 G 60	不整形	暗褐色土	"		
65	6 E 15	楕円形	暗褐色土	"		炭化粒若干含む
66	6 E 45	円 形	暗褐色土	"		周辺に炭化粒散布
67	6 E 65~75	溝 状	暗褐色土	"	土師・甕 繩文・深鉢	鬼高～真間期 後期
68	6 F 25	溝 状	黑色土	"		
69	6 G 55~65	方 形? (溝状)	黑色土	"		
70	6 G 69~89	円 形?	暗褐色土	II c	須恵・甕 石器	真間～国分期 繩文
71	7 G 84~94	方 形?	黑色土	II b		
72	6 D 92	溝 状?	黑色土	"	土師・甕、高环	84~94にかけて燒土が散布 鬼高峰期
73	2 A 96~7	帯 状	燒 土	"		
74	2 B 90~91	溝 状	黑色土	"		No 5 と同一の遺構
75	2 C 44	不整形	燒 土	"		
76	2 C 44~54	方 形	黑色土	"		
77	2 C 92~93	方 形	黑色土	"	土師・甕、坏 滑石	和泉～鬼高峰期、住居址 有孔円板未製品
78	4 A 37~38 47~48	方 形	黑色土	"	土師・甕、埴	和泉期 住居址



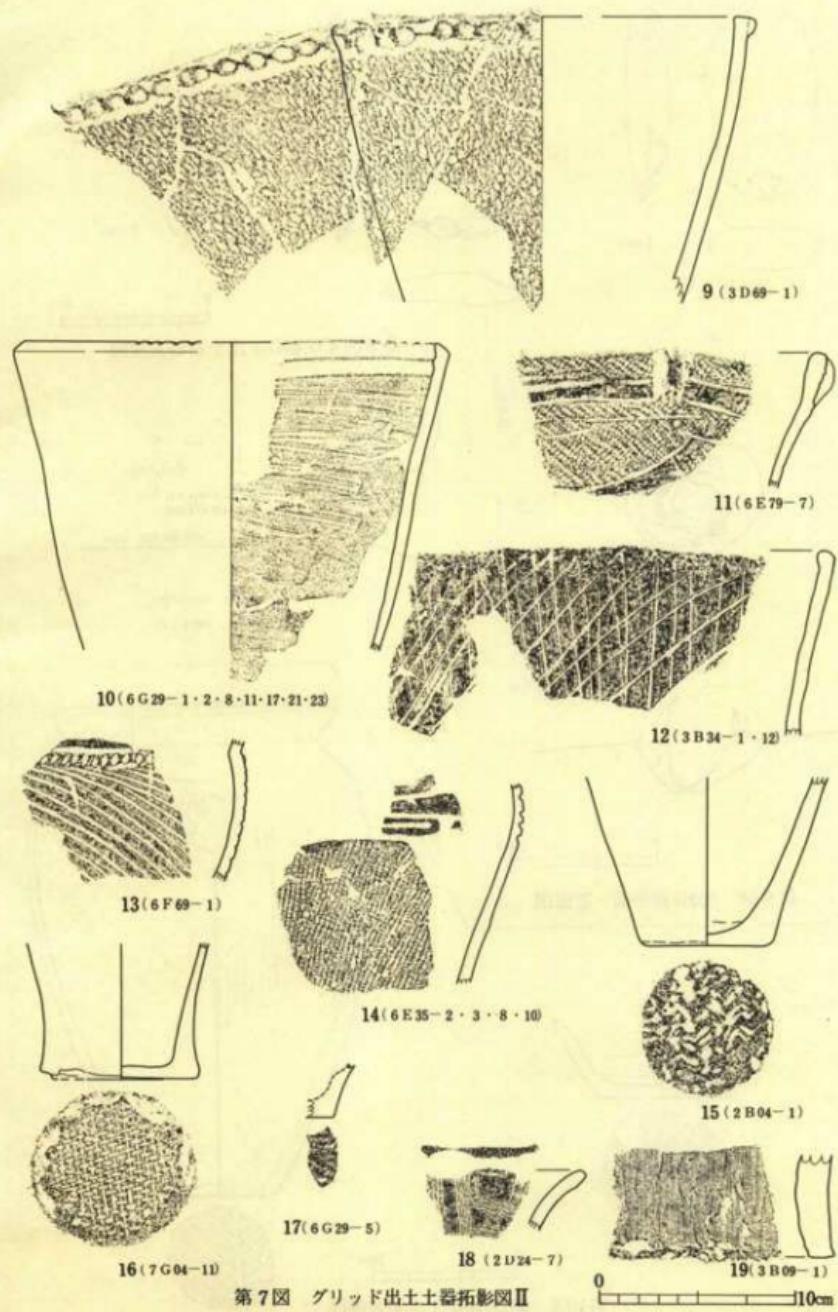
第4図 4 G 40Gr遺物出土状況図



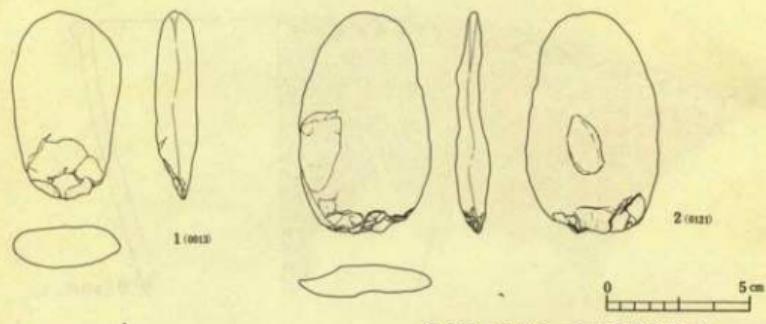
第5図 4 G 40Gr出土土器拓影図



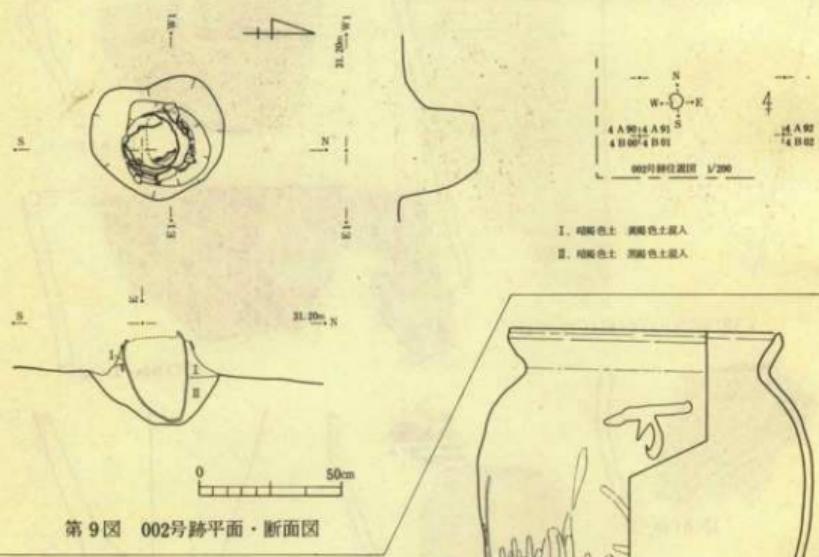
第6図 グリッド出土土器拓影図I



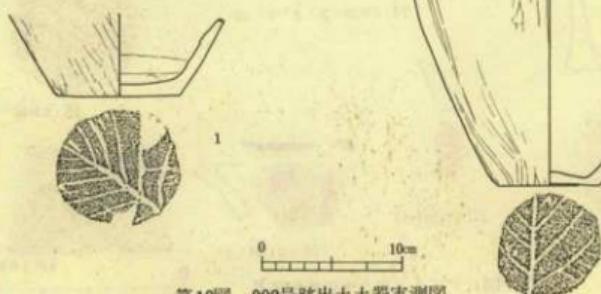
第7図 グリッド出土土器拓影図II



第8図 G40G r 出土石器実測図



第9図 002号踏面・断面図



第10図 002号踏出土器実測図

・ 4 G 40 Gr 出土遺物 (第 4 ・ 5 図)

本グリッド II C 層から小礫が数十点集中して出土した。礫はグリッド北西側に径約 1 m 前後の範囲に比較的まとまっている。礫間の比高差は 15~20cm を測る。礫に混って土器片も數十点出土しているが、いずれも小破片であって土器胎土の悪さのためか磨耗が著しい。これらの礫は、IIc 層を掘り込んだ遺構の内部にあるのではなく、ある面に対して水平分布を有していたものと思われる。しかし、面は捉えることが出来なかった。礫の中には石器 2 点 (第 8 図) が含まれている他、火熱を受けたものも認められる。これらの礫は、意図的に集積されたものとは考えられず、寧ろ何等かの理由により、この地点に廃棄されたものと思われる。また、出土土器と礫とは混在した様相を呈し、極だった分布の差はなく礫が廃棄された時間と近接するものと思われる。出土土器をみると (第 5 図 1 ~ 4)、いずれも胎土中に繊維を含み、条痕が施される点からみて縄文時代早期後半のものと思われる。

グリッド出土土器 (第 6 ・ 7 図)

縄文式土器 (1 ~ 17)

1 ~ 4 は、早期の土器である。1 は口縁部から胴部にかけて縄文が施文され、2 は沈線による文様が施される。3・4 は胎土中に繊維を含むもので、3 は半截竹管による文様が施される。

5 は、中期の土器である。加曾利 E 式に比定される。この時期の土器は概して少い。

6 ~ 17 は後期の土器である。加曾利 B 式・曾谷式に比定されるものが多い。後期の土器は比較的多く出土しており、直接接合出来なかつたがまとまって出土しているもの (10・11・12) がある。17 は 10 と同一個体である。14 は、後期末～晚期初頭に位置付けられるものであろう。

弥生時代 (18)

後期に比定されるもので、櫛歯状工具による文様が施される。この他数点の土器が出土。

古墳時代 (19)

円筒埴輪の基部の破片である。埴輪はこの一点のみしか出土していない。この他土師器は、前期末～中期にかけてのもの及び後期のものが出土している。

・ 002 号跡について (第 9 ・ 10 図)

4 A 91 Gr より検出されたもので、径 45cm 前後の不整円形を呈する土壤内に土師器・壺形土器が埋置されたものである。壺形土器内部より骨粉が若干検出され、本土器が藏骨器に使用されたものであることが判明した。検出時藏骨器に密着するようにして、土師器・壺形土器破片が少量存在し、藏骨器内からも少量出土した。整理過程においては、この土器は完全に接合出来なかつたが、底部から胴部上部付近までの破片が存在した。藏骨器周囲に存在していたのは胴部破片のみで、底部は藏骨器内より出土しており、この土器が蓋として使用されたものと思われる。藏骨器の胴部上方には「万」と思われる墨書きがある。

002 号跡の他に 001・003 号跡からも土壤内から土師器壺形土器が出土しており、001 号跡は

その出土状況からみて藏骨器と思われるが、003号跡は土師器口縁部へ胸部破片が出土したにすぎず検討する余地がある。

2) 五丹歩遺跡（北地点）

本遺跡は、五丹歩遺跡（南地点）と同一台地にあることから、五丹歩遺跡（北地点）と称した。標高は31~32mを測る。現状は山林でナラ・クヌギ等の樹木が繁り、植林された松林内には「塚」が数多くみられる。

本遺跡における標準層位は、I層が暗褐色土、IIa層が黒色に近い暗褐色土であり、これらの土層から土師器片が出土する。IIb層は茶褐色土で若干暗褐色土が混じる。この層は新期テフラに対比される層であり、縄文式土器片が多く混入している。IIc層は、暗褐色土で遺物の出土は少ない。III層は、ソフトロームで表土層より45~60cmを測る。遺構確認土層面はIIb層上面である。第I Trench（南北90×2m）からは001~003号跡が確認された。第II Trench（90×2m）からは004号~007号跡が検出された。003号跡はIIb層上面より暗褐色土の落ちこみが認められた。第III Trenchは南北へ120×2mであり008~009号跡が検出された。6G79より加曾利B式土器が出土した。（第13図）第IV Trench（東西方向へ75×2m）の7F05~7F09GrではIIb層より縄文土器片がやや多く出土した。遺構では011~013号跡が検出され、遺構底面までの深さは表土層から50~60cmであった。第V Trench（東西方向へ100×2m）からは014号~016号跡が検出された。

3) 池上りII遺跡

本遺跡の土層は、I層表土層15cm、IIa層暗褐色土10cm、IIb層茶褐色を呈す新期テフラ層15cm、IIc層暗褐色土10cm、III層ソフトローム層である。

遺構は、茶褐色土層（新期テフラ）上面で検出した。第I Trenchでは、6箇所の遺構を確認した。遺物はIIa層より土師器片が多く出土しているが、きわめて小片である。

002号遺構（第12図2・図版2）

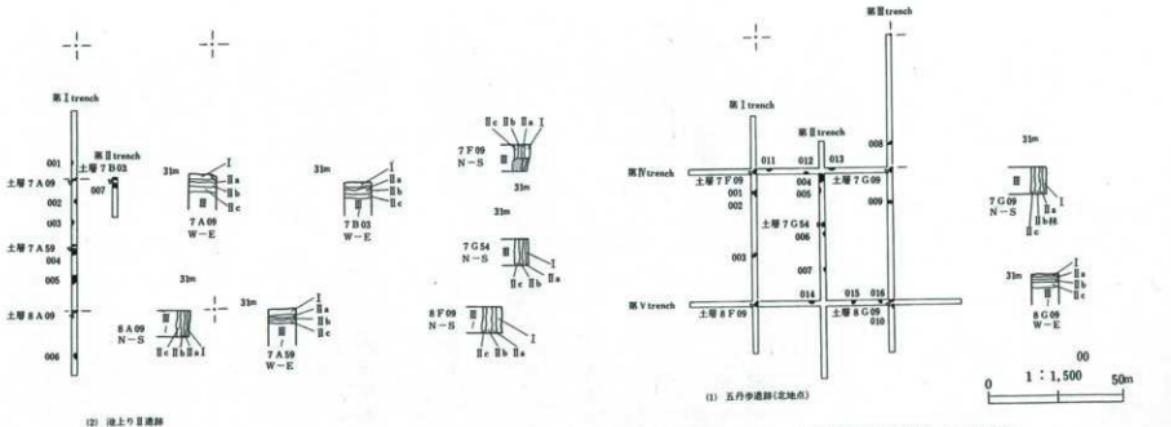
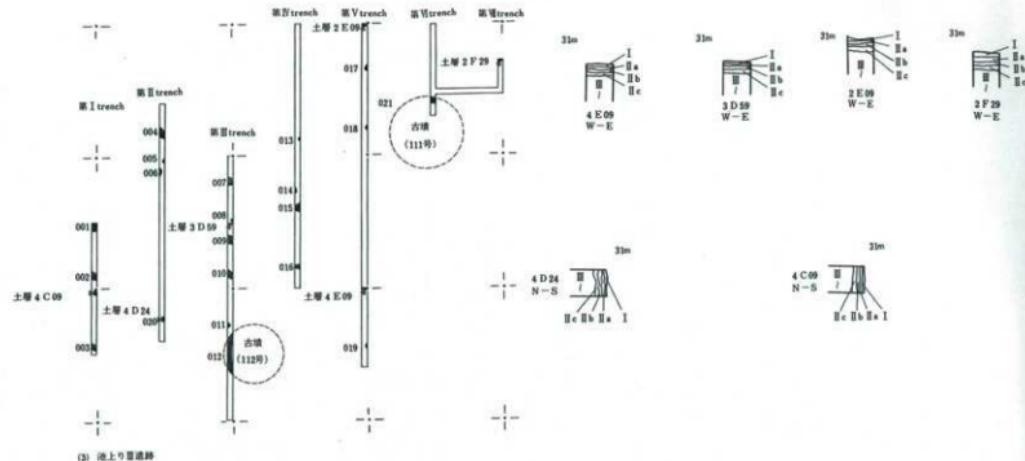
本遺構は、IIb層上面で検出された。覆土より出土した遺物は、縄文後期中葉の土器片でL-Rの縄文を施文する。遺構覆土は黒い暗褐色土を示す。深さも表土より50~60cmを示す。

003号遺構（第14図・図版2）

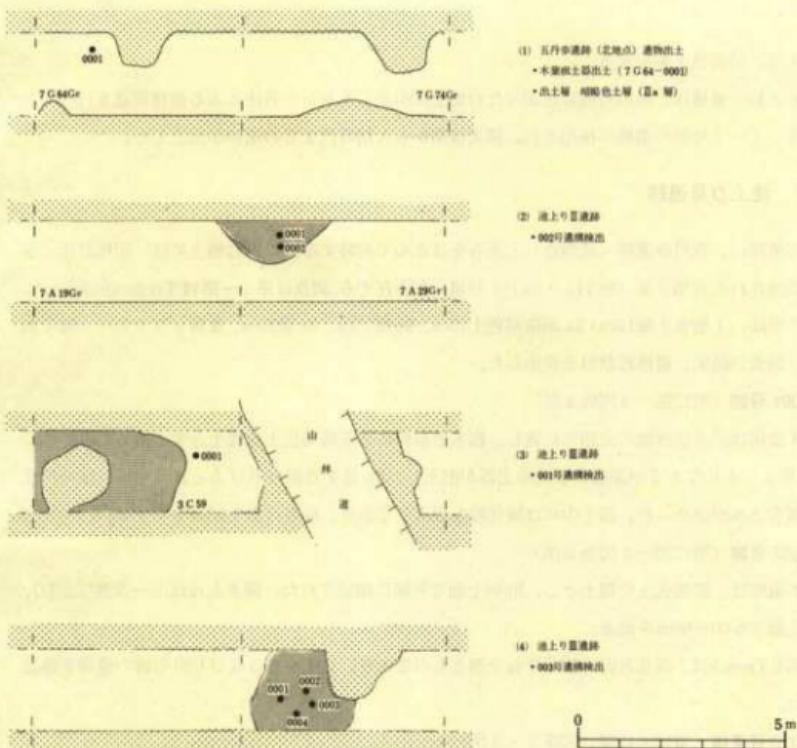
本遺構も、IIb層を掘り下げていった時点で検出され、縄文後期の土器片が1点出土している。土器は口縁部に沈線文が2条施文され胸部にはR-Lの縄文が施される。

第I Trenchでは、縄文土器を伴なう遺構は002・003号跡、土器を伴なわない遺構は004・005号跡、土師器片を含む遺構は001・006号跡である。

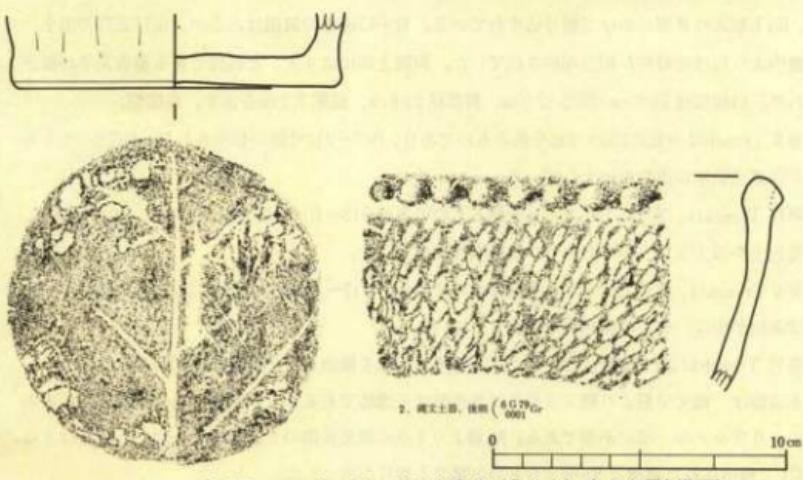
第II Trenchは15×2mを測るものである。007号跡は茶褐色の新期テフラ層上面で検出された。



第118図 五円歩道跡(北地点)、池上りⅡ道路 造構分布図・土層断面図



第12図 五丹歩遺跡（北地点）、池上りⅡ—Ⅲ遺跡遺構検出状況図



第13図 五丹歩遺跡（北地点）出土土器拓影図

覆土は、暗褐色土を呈する。

まとめ：遺構は、馬の背状に広がった台地上に所在しトレンチ方法による遺構確認を行なった結果、1～7号跡の遺構が検出され、縄文後期から古墳時代までの遺物が出土した。

4) 池上りⅢ遺跡

本遺跡は、五丹歩遺跡（北地点）と支谷をはさんで対峙する。この台地上には、昭和27年に学術調査された古墳2基（No.111・No.112号墳）が所在する。調査は第I～第VII Trenchを設定した。

土層は、I層表土層15cm・IIa層暗褐色土10cm、IIb層15cm、IIc層20cm、III層ソフトローム層である。調査の結果、遺構総数21を検出した。

001号跡（第12図—3図版2図）

本遺構は、舌状台地の北西に位置し、樹木の根幹にある暗褐色土を覆土とする落ち込みである。IIa層より小片であるが加曾利B式の土器が出土し、IIb層まで掘り下げるとき、カマボコ状の黒色の落ち込みが認められ、覆土中には炭化粒も混入しており、深さは表土60cmを呈する。

003号跡（第12図—4図版2図）

本遺構は、暗褐色土を覆土とし、IIb層上面で明瞭に確認された。深さもほぼ同一深度で止まり、表土面より60～80cmを測る。

第II Trenchは、南北方向へ90×2mを測るものであり、004～006及び020号跡の遺構を確認した。

020号遺構（第16・17図；図版2・4図）

4D24グリッドの壁際で検出した。表土面より埋置面まで30cmを測る。遺構掘方は楕円形を呈し、IIa下層よりIII層にかけて掘り込まれている。若干口縁部の破損はあるが、ほぼ完形で出土。

甕内より焼けた骨片が相当埋納されていた。胴部上部には「大」と判読できる墨書き文字が確認された。口縁部径20.8cm、器高32.5cm、胴部径22.8cm、底部7.2cmを示す。真間期。

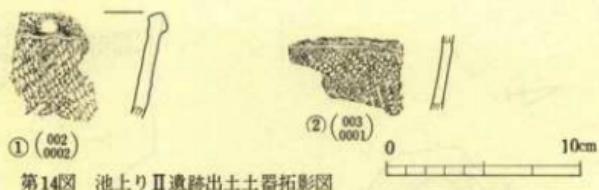
第III Trenchは南北に100×2mを測るものであり、007～012号跡が検出された。007号、009号跡には縄文後期の遺物も出土している。

第IV Trenchは、南北に100×2mを測るものであり013～016号跡が検出された。013号跡は、暗褐色土を覆土とし、小片であるが土師器片が出土した。

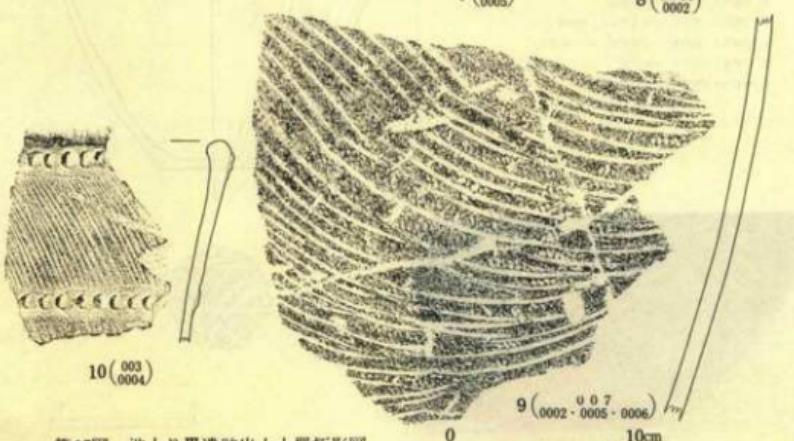
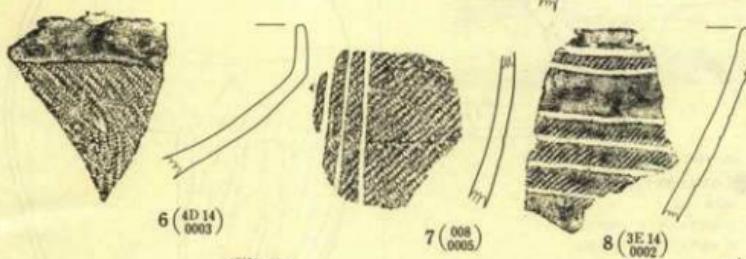
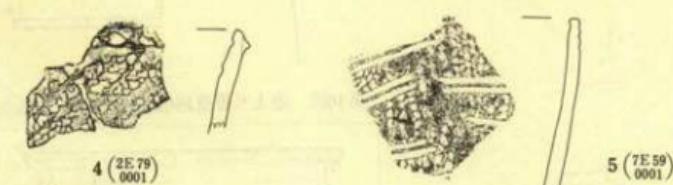
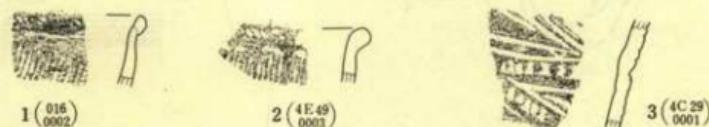
第V Trenchは、南北120×2mを測るものであり、017～019号跡を検出した。これらの落ち込みは遺物が少ないが、暗褐色土を覆土としている。

第VI Trenchは、出土遺物はないが、111号墳の周溝を検出した。周溝幅1.20mを測る。

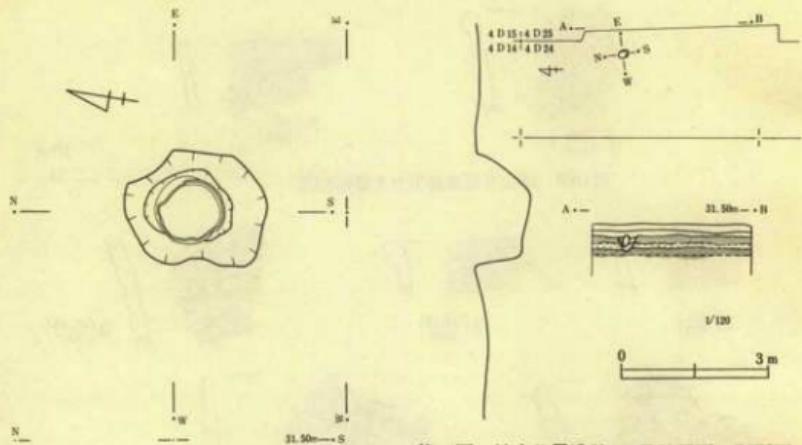
本遺跡は、縄文早期より縄文後期及び奈良時代の遺跡であることが判明した。012号跡は木の根によりプランの一部が不明である。IIb層より4点の縄文後期の土器が出土した。013号は8G 08Grで検出された遺構でIIb層より8点の縄文土器片が出土した。



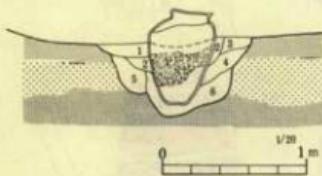
第14図 池上りⅡ遺跡出土土器拓影図



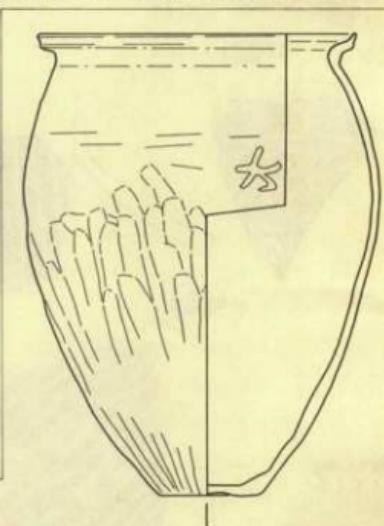
第15図 池上りⅢ遺跡出土土器拓影図



第16図 池上りⅢ遺跡020号跡平面・断面図



020号遺跡内土層
 ● 姉崎色土(若干多量混入、炭化している)
 020号断面土層
 1. 姉崎色土(若干ローム粒含む)
 2. 姉崎色土(炭化した姉崎色土)
 3. 姉崎色土(若干ローム混入するが、姉崎色)
 4. 姉崎色土(黒色を示す。若干軽いローム粒含む)
 5. 姉崎色土(若干ローム粒含む)
 6. 姐崎色土(炭化した姉崎色土)



020号 骨片内骨片含有状況



第17図 池上りⅢ遺跡020号跡出土土器実測図及び骨片出土状況図

出土遺物（第12・13図、図版2図）

五丹歩遺跡（北地点）

第12図(1)は、木葉痕をもつ土器底部である。底部径10.5cm、現器高3.5cmを測り、IIa層より出土した。(第12図(2))は、加曾利B式土器で、口縁部がやや内傾している。IIa層の下部より出土した。

まとめ：五丹歩遺跡（北地点）では、黒色の落ち込みを含めて001～016号跡の遺構を検出した。縄文土器を伴う遺構は、001号・002号・004号・015号・016号、土器を伴わない黒色の落ち込みは、005号・006号・007号・008号・009号・010号・011号・012号・013号、土師器を伴う遺構は、003号である。

調査の結果、縄文時代後期の出土遺物が多く出土しているので、縄文期の人々の生活の場であったといえるのではないか。

出土遺物（第15図、図版4）

1～3は早期の縄文土器である。1・2は口縁部から胴部にかけて撫糸の施文が見られる。3は田戸下層式土器で直刺文様が右から左へと見られ、沈線も斜行を示す。4は半截竹管による平行沈線文様を施し、その間に縄文の施文が見られる。5は口縁部に列点文様を示す阿玉台式に比定される土器である。6は浅鉢で口縁部に無文帶を示す縄文後期の土器である。7は地文にR・Lの粗い縄文を施し、その上に沈線が縦状に入り込んだ縄文後期の土器である。8は口縁部からR Lの施文が見られる縄文で、磨消し文様の縄文後期の加曾利B式土器である。9は斜位に沈線文様が入った縄文後期の大型深鉢土器の胴部片でまとめて出土している。10は口縁部及び胴部にかけて突帯を張りつけ、その上に刻目を施したつめ形文様を示している。その間に半截竹管による斜行状文様が施された縄文後期から晩期にかけた土器片である。

まとめ：池上りⅢ遺跡の台地を広域に確認トレンチを入れた結果、総遺構数21号の遺構を検出した。縄文土器を伴う遺構001・003・006・007・009号、土器を伴わない落ちこみ004・005・008・010・014～019号、土師器片を出土した002・011・013号、藏骨器として埋納された020・111号古墳の周溝を示す021号の遺構が検出された。

既に古墳の残存及び020号跡より、縄文時代早期から奈良平安時代にかけて多数の遺構が埋蔵されていることが判明した。

PL
1 図 道路遠景・五月歩道跡(南地点)調査状況



(1) 道路遠景(南東より) 左上 風土記の丘資料館 左下 岩屋古墳



(2) 発掘状況(5F04~94Gr列)



(3) 土層断面(3A 59Gr 東側)



(4) 碓群出土状況(4G40Gr・南より)



(5) 002号跡蔵骨器出土状況(北より)



五丹歩道跡(北地点)出土遺物(7G64Gr)



池上り III 道跡出土遺物(020号) 蔵骨器



池上り II 道跡出土遺物及び遺構(002号)



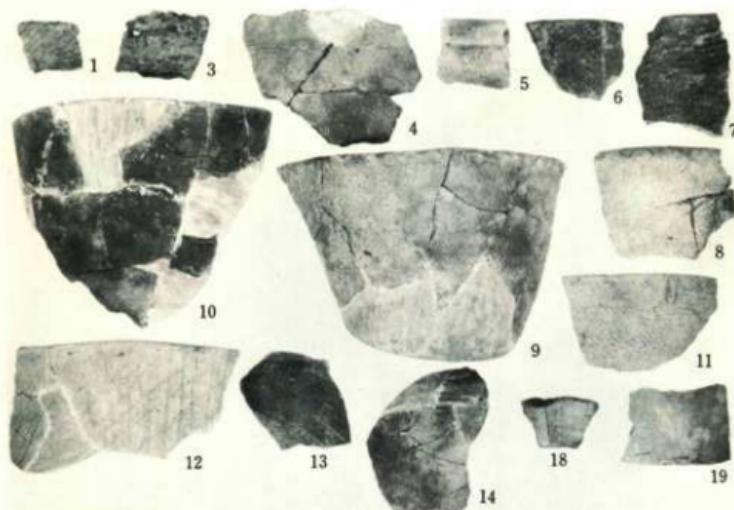
池上り III 道跡出土遺物及び遺構(001号)



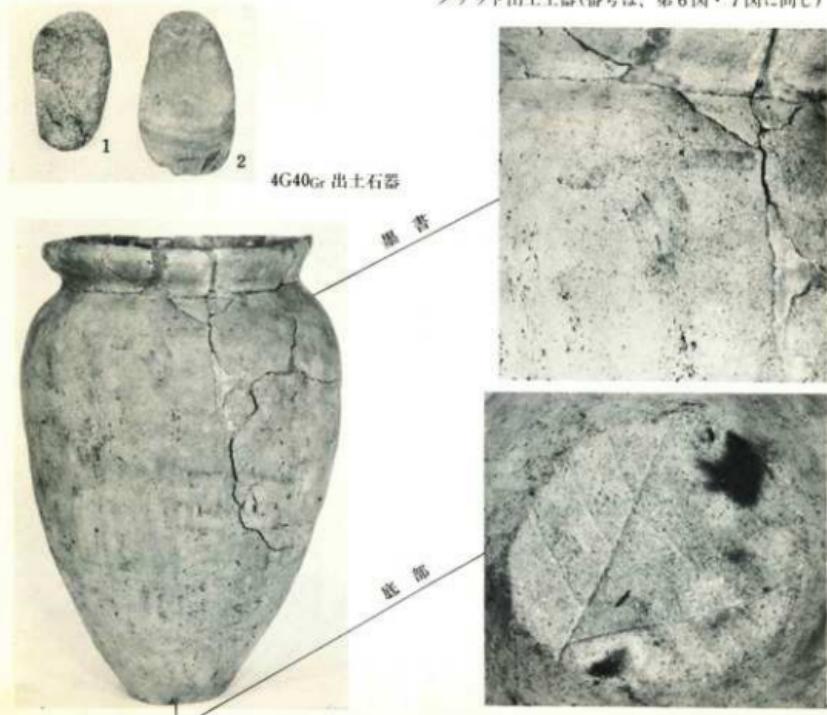
池上り III 道跡出土遺物及び遺構(003号)



調査終了(埋めもどし)



グリッド出土土器(番号は、第6図・7図に同じ)



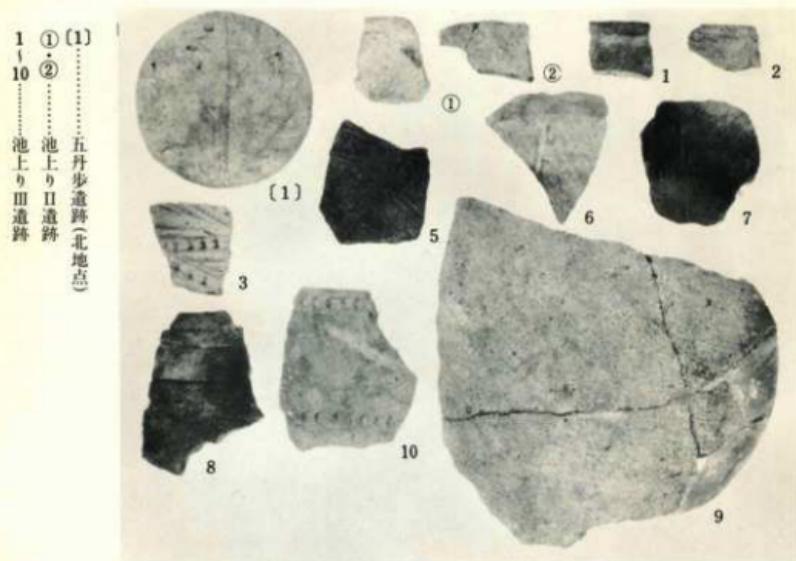
4G40Gr 出土石器

基部

底部

002号跡(4A91G)出土土器

PL
4 図 五丹歩道跡(北地点)、池上り II・III 道跡出土遺物



五丹歩道跡(北地点)、池上り II・III 道跡出土遺物



池上り III 道跡 020号出土遺物

